

2012年12月19日 教育プログラム① 帝塚山大学(東生駒キャンパス)
「アジアと世界における貿易と投資」
国連貿易開発会議(UNCTAD)事務局長 スパチャイ・パニチャパック 氏

私が、国際舞台で仕事をするようになって11年が経ちます。今は国連貿易開発会議(UNCTAD)で、主に開発に関する研究をしています。世界各国が自国の市場や国民を守り、より競争力のある国になるよう政策立案、提言をおこなうことが私の仕事です。私は、世界がよりよい状態になるよう常に心掛けて仕事をしています。

ジャマイカは中央アメリカに位置し、コーヒーやレゲエで有名な、人口100万人の貧しい国です。独立して50年経ちますが、様々な問題があり、解決には海外からの投資が必要です。

ネパールは、LDC (Least Developed Country) と呼ばれる世界の最貧国です。ネパールの貧困の原因は、政権がたびたび替わり、不安定で、経済復興のための施策ができないことにあります。

2004年に、ネパールとカンボジアが最貧国として初めてWTO(世界貿易機関)に加盟し、当時事務局長を務めていた私はそのことを非常に誇りに思っています。

カンボジアはWTOの恩恵を受け大きく成長しましたが、ネパールには何ももたらされず、貧しいままです。教育も健康も投資もインフラも必要ですが、何をするにも電力がまず必要です。ネパールには水力資源が豊富にあるので、水力発電プロジェクトだけは進めてほしいとネパールの首相に伝えました。

世界状況は非常に難しい局面にあります。失速する世界経済、今後火種になり得るユーロ圏の経済状況、アメリカの「財政

の崖」をめぐる問題、世界情勢の新興国経済への影響の四つを、私は非常に懸念しています。

貿易は経済の原動力になります。アジアは対外貿易の依存度が高く、経済状況が貿易に非常に左右され、地域全体が影響を受けます。

ここ数年の間、世界で非関税障壁や食料の輸出制限等、貿易や投資の面で保護主義が台頭して、世界経済が滞り、様々な問題を引き起こしています。

大国間の貿易紛争も増加し、WTOの紛争解決機関にはたくさんの問題が提訴されています。また、ドーハラウンドも失敗し、世界は解決策を見い出せずにいます。

現在約160カ国近いWTO加盟国が合意形成をすることは困難であり、今後は多国間の枠組みだけではなく、少数の国同士が、地域別、分野別に、段階的に合意を得ることが重要となります。WTOのルールに沿ったかたちで、オープンな新しい貿易の枠組みが必要なのです。

私たちはアジアの発展のため、お互いが常に意識して協力し合わなければなりません。アジア経済こそが世界の先頭に立ち、アジア中心の世紀をつくることができると考えています。アジアはしっかりした経済体制を持っており、既に用意は整っています。私たちは互いに、もう少し協力を深めましょう。

私は、アジアの国々が連携して、世界の他の地域と交渉していけば、アジアの地位はもっと強くなると考えます。

